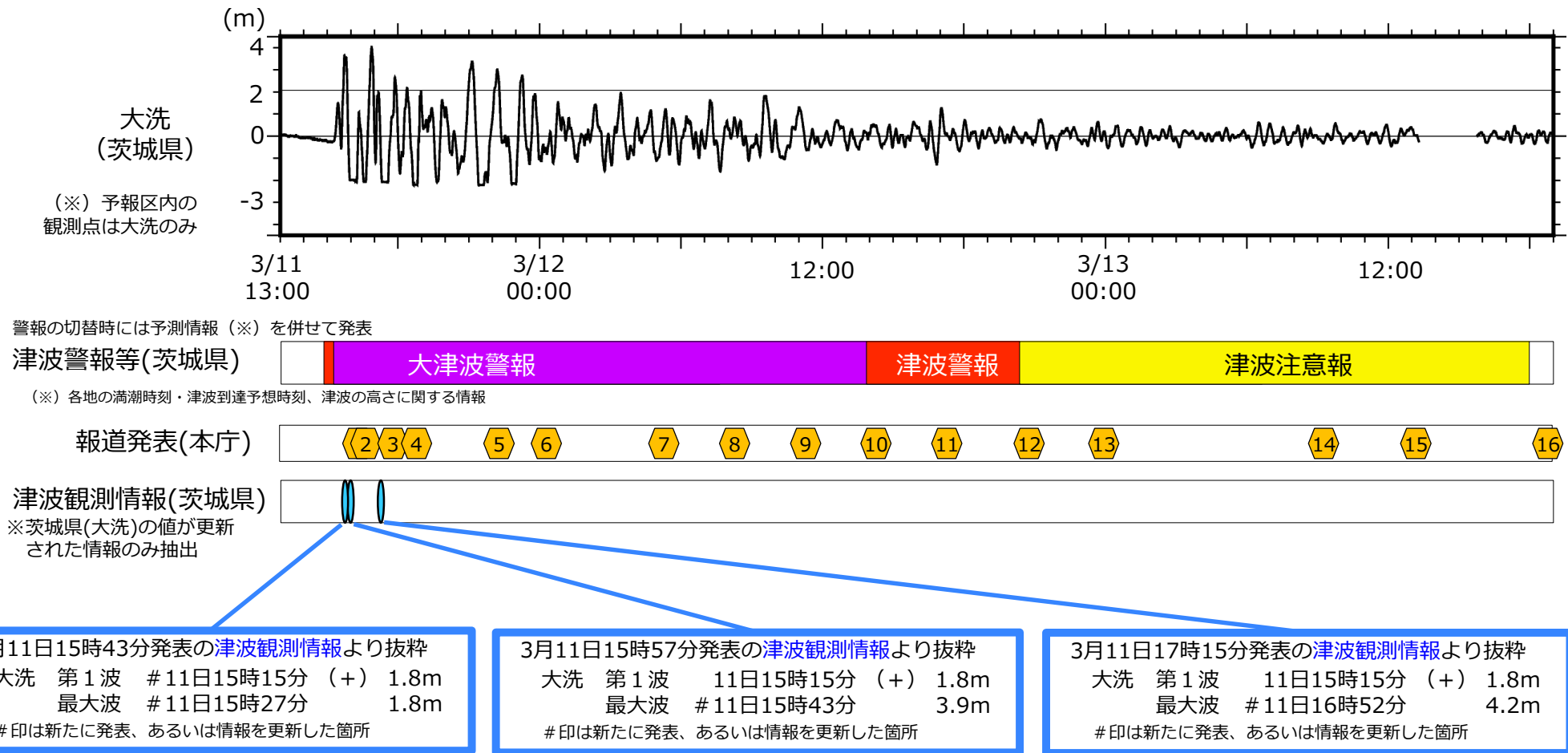


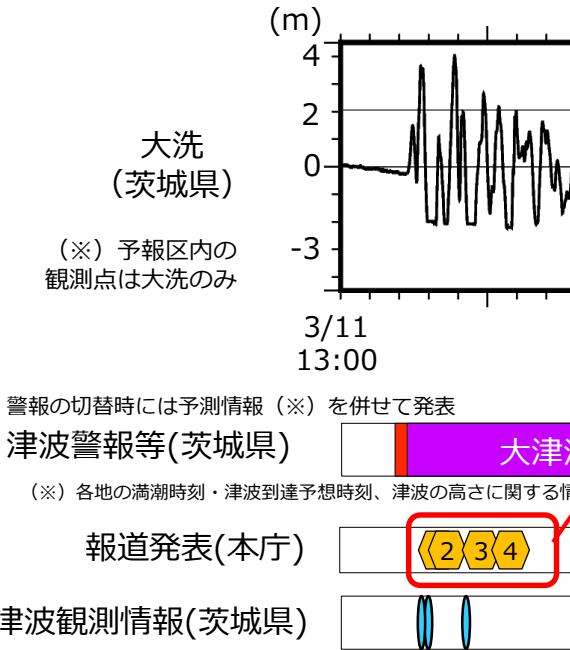
長時間継続する津波時の 津波情報や解説の充実について

津波の推移と情報発表の時系列（2011年東北地方太平洋沖地震：茨城県）

2011年東北地方太平洋沖地震における津波予報区「茨城県」で気象庁が発表した情報を例に、津波波形とともに時系列で整理した。また次ページ以降では、津波警報等が発表されている各時間帯で、気象庁が行った呼びかけ内容や、自治体（今回は茨城県）が取った防災対応を示す。



最初の津波警報発表から約6時間後（～3/11 20:49）

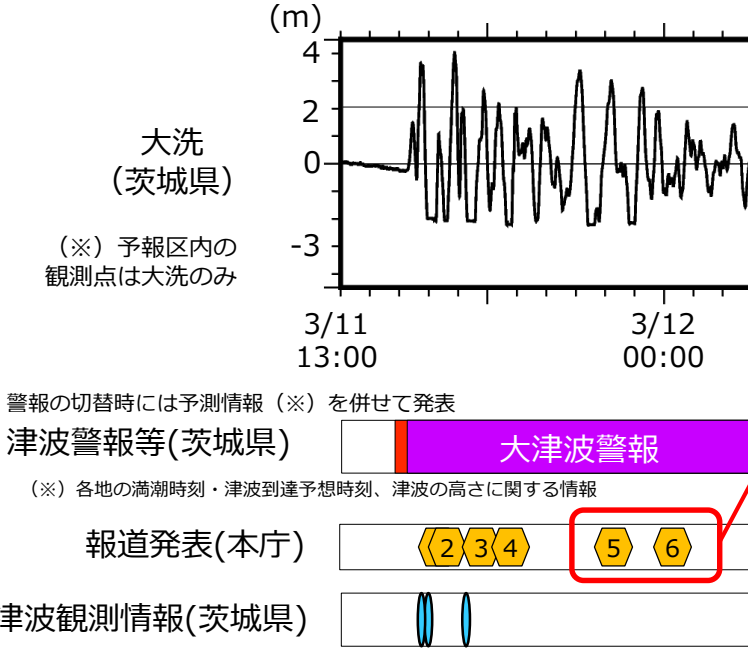


報道発表での呼びかけ内容や見通しの言及（11日16時00分、18時30分）

- （報道発表資料より）大変高い津波が観測されています。津波警報を発表している沿岸では、厳重に警戒してください。また、津波は繰り返し襲ってきます。警報が解除されるまで警戒を続けてください。
- （11日16時00分記者会見にて）10m以上が予想されており、30m以上の高いところに避難してほしい。第1波よりも第2、3波が高くなることもある。**津波が1度引いた後も次の津波がやってくるので、戻ったりしない。津波は半日～1日は継続することがあるので、避難を継続してほしい。**
- （11日18時30分記者会見にて）現在、高い津波が観測されている。津波警報の発表されている地域では避難してほしい。**既に避難されている方はそのまま避難を続けてほしい。津波は繰り返し襲ってくる。まだ津波が来ていないところも、これから来る恐れがある。**

14:46	日本赤十字社茨城県支部	支部災害救護実施対策本部会議。水戸・古河赤十字病院救護班の活動準備開始
15:00	茨城県災害対策本部	防災ヘリによる被害情報収集を開始
15:02	航空自衛隊百里基地	航空機による東北及び関東地方沿岸等の被害情報収集を実施（3/12以降も）
16:21	陸上自衛隊施設学校（勝田）	県知事からの災害派遣要請を受理（16:47～派遣）
17:00	高萩工事事務所	国道245号線のうち津波による通行規制区間を通行止め
17:30	漁業無線局	沿岸で操業する漁船から、自宅の安否確認依頼多数入電。入港せず引き続き津波に警戒するよう指示。気象庁からの情報を冲合避難中の漁船へ定時無線放送。
18:02	茨城県災害対策本部	第1回災害対策本部会議（地震の概況、津波による避難勧告等の状況、自衛隊への災害派遣要請、被害状況や県の対応状況など）
19:23	ひたちなか市消防本部	指揮車による海岸線の巡視実施
20:00	茨城県災害対策本部	陸上自衛隊の応援部隊到着に備えた調整（活動拠点や3/12の活動内容、部隊配分等）
20:30	茨城海上保安部	清水海上保安部（静岡県内）所属の巡視船に茨城県沖合への派遣命令（3/12 11:35到着）

最初の津波警報発表から約12時間後（～3/12 02:49）

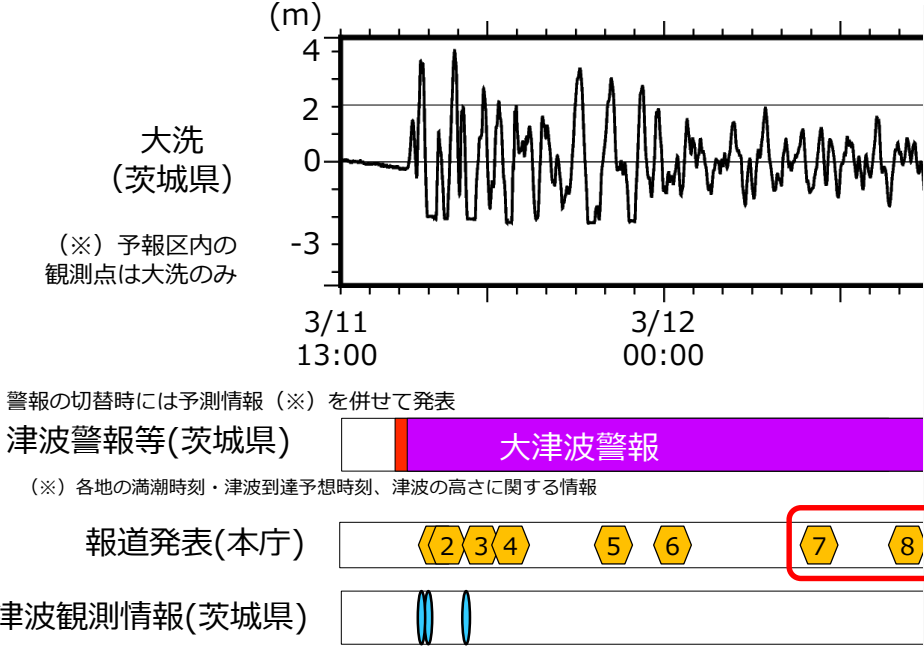


報道発表での呼びかけ内容や見通しの言及（11日22時00分、12日00時00分）

- （報道発表資料より）大変高い津波が観測されています。津波警報を発表している沿岸では、厳重に警戒してください。また、津波は繰り返し襲ってきます。警報が解除されるまで警戒を続けてください。
- （11日22時00分記者会見にて）**まだ減衰せず高い津波が観測されている**。長くて1時間程度の周期で繰り返している。太平洋沿岸でデータ断となっているところがあるが、周辺の観測点の状況から見てまだ高い津波が来ていると思われる。関東でも1 mを超える津波が繰り返している。**今後いつ弱まるかの見通しはたっていない。引き続き警戒してほしい。**

21:25	日本赤十字社茨城県支部	古河赤十字病院救護班が大洗町の避難所へ出動
21:30	茨城県災害対策本部	陸上自衛隊の応援部隊第32普通科連隊が到着（翌04:00には別部隊も到着）
22:00	茨城県災害対策本部	「災害時の緊急輸送救援輸送に関する協定」の締結先の(社)茨城県トラック協会へ連絡し、輸送手段を確保
23:00	茨城県災害対策本部	第2回災害対策本部会議（被害状況とこれまでの対応、翌日から職員を市町村へ派遣を決定）
23:00	茨城空港	国土交通省百里空港事務所から、3/12は茨城空港を閉鎖する旨の連絡
23:31	関東地方整備局鹿島港湾・空港整備事務所	災害対策支部で、港の施設の点検や航路啓開等を、優先順位を加味して翌日からの作業方針を固めた

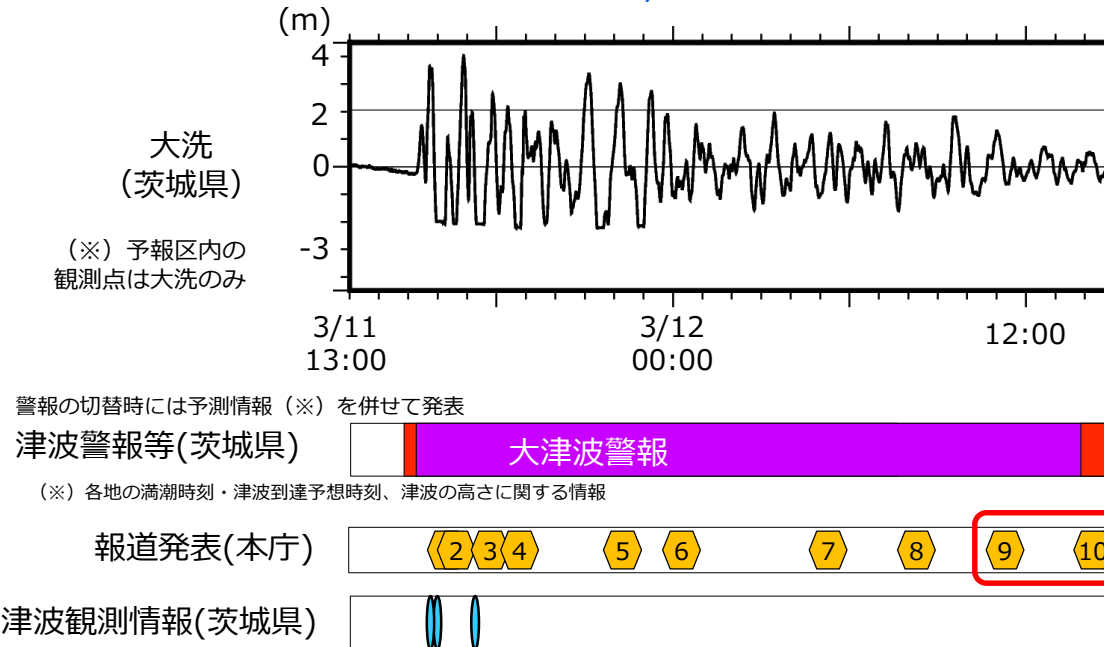
最初の津波警報発表から約18時間後（～3/12 08:49）



- 報道発表での呼びかけ内容や見通しの言及（12日05時00分、08時00分）
- （報道発表資料より）大変高い津波が観測されています。津波警報を発表している沿岸では、厳重に警戒してください。また、津波は繰り返し襲ってきます。警報が解除されるまで警戒を続けてください。
 - （12日05時00分記者会見にて）
 - ・まだ減衰せず高い津波が観測されている。長くて1時間程度の周期で繰り返している。
 - ・津波注意警報のグレードダウンはもう少し様子をみないと判断できない。
 - ・津波は繰り返し押し寄せるため、一時的に津波が引いても戻らないことが大切である。津波が押し寄せるタイミングは予測ができない。

04:50～	漁業無線局	一時寄港を希望する避難中の漁船に対して、津波警報継続中のため沖合避難の継続を指示。
05:00	茨城港大洗港区事務所	自転車で大洗港内パトロール実施
05:30	大洗町	町災害対策本部会議開催。現地調査を指示（06:00開始）
05:51	陸上自衛隊施設学校（勝田）	飛行隊による隊区内海岸沿いの航空偵察を開始
07:00	茨城県災害対策本部	津波被害を受けていると想定される沿岸市町村を中心に職員の第1次派遣（17:00第2次、翌07:00第3次）

最初の津波警報発表から約24時間後（～3/12 14:49）



報道発表での呼びかけ内容や見通しの言及

(12日11時00分)

- （報道発表資料より）大変高い津波が観測されています。津波警報を発表している沿岸では、厳重に警戒してください。また、津波は繰り返し襲ってきます。警報が解除されるまで警戒を続けてください。

(12日14時00分)

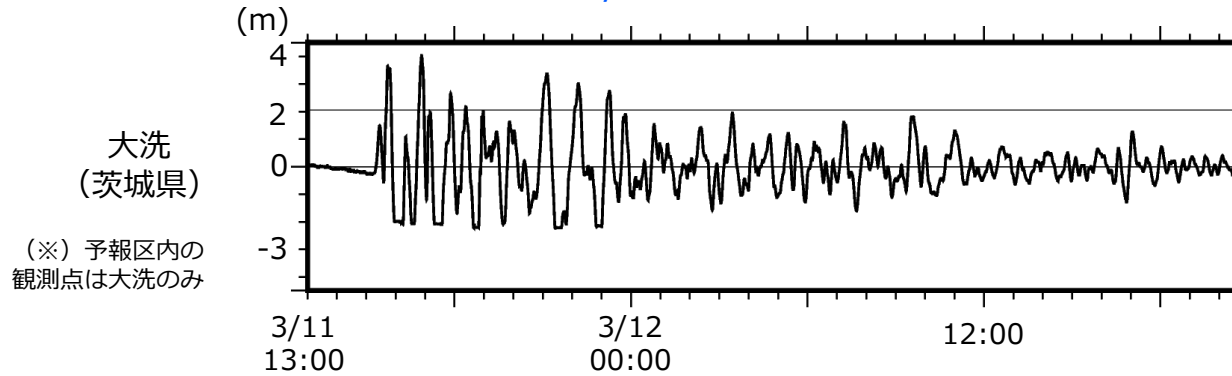
- （報道発表資料より）13時50分に一部の津波予報区で津波警報・注意報の切り替えを行いました。引き続き大津波の津波警報を発表している沿岸では、いまだ3mを超える津波のおそれがありますので厳重に警戒を続けてください。また、津波の津波警報を発表している沿岸についても警戒を続けてください。津波警報から津波注意報になった沿岸では引き続き海岸付近は危険なので、近づかないでください。

○（記者会見にて）

- ・ **全体的にゆっくりと津波が弱まっている。**地点ごとに異なるが、全体的な状況を理解し、**これ以上には高くないと確認できたため津波警報のダウングレードを行った。**
- ・ 残りの予報区の次のダウングレードの見込みはまだわからない。今回も、慎重に勘案して決定した。最新の観測波形をチェックし、下げることになるが、慎重に行う必要がある。なるべく早く解除できるところは進めたいが、少し時間を頂きたい。

09:04	茨城県災害対策本部	第3回災害対策本部会議（人的・住家屋・道路・河川・インフラ等の被害状況が徐々に判明してきた。津波による避難勧告が出ている地域もあるため、人命救助に当たっては安全に配慮して活動するよう指示。）
09:20	北茨城市	陸上自衛隊大宮第32連隊による搜索活動開始
10:00	茨城空港	百里空港事務所主催の関係者会議第1回（空港ビルの被害状況。3/12から全便欠航）
11:35 ～	茨城海上保安部	巡視船艇2隻で、沖合の人命救助及び漂流物の調査を実施。約47隻の漂流船の確認（すべて無人）。
12:20	大洗町	TEC-FORCEによる大洗港の被害調査開始
13:50	茨城港大洗港区事務所	大洗町、茨城ポートオーソリティ、商船三井フェリー、大洗港事務所で情報共有及び当面の対応策の協議
14:30	茨城港大洗港区事務所	大津波警報から津波警報に切り替わったため、被害状況の調査開始。

最初の津波警報発表から約30時間後（～3/12 20:49）（2枚中1枚目）



警報の切替時には予測情報(※)を併せて発表

津波警報等(茨城県)

	大津波警報	津波警報
--	-------	------

(※) 各地の満潮時刻・津波到達予想時刻、津波の高さに関する情報

報道発表(本庁)

2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	1
---	---	---	---	---	---	---	---	----	----	---

津波観測情報(茨城県)

--	--

報道発表での呼びかけ内容や見通しの言及

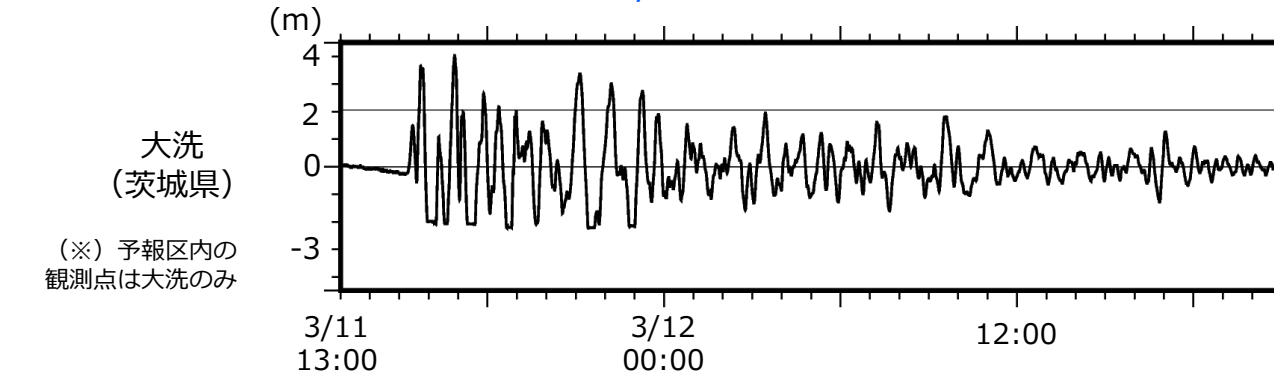
(12日17時00分)

- （報道発表資料より）大津波の津波警報を発表している沿岸では、厳重に警戒してください。また、津波の津波警報を発表している沿岸では、警戒してください。津波は繰り返し襲ってきます。警報が解除されるまで警戒を続けてください。
- （記者会見にて）今夜中に津波警報・注意報の解除はありうるが、津波データの経過をみて判断する。

(12日20時30分)

- （報道発表資料より）津波の津波警報を発表している沿岸では、引き続き警戒してください。津波は繰り返し襲ってきます。警報が解除されるまで警戒を続けてください。
- （記者会見にて）津波の観測については入手できる限られた情報から、徐々に減衰していると考えている。津波警報は最大2mで、もう少し減衰するかもしれないが、1mを超える可能性が残っており、明日朝にかけて低くなっていくと思われる。津波警報が出ているところでは、夜間は海に近付かないようにして欲しい。今後、夜間は監視が難しいので、明日朝に関係機関から情報収集を行い、実況を見極め、減衰しているようであれば注意報や解除に切り替えたい。

最初の津波警報発表から約30時間後（～3/12 20:49）（2枚中2枚目）



警報の切替時には予測情報（※）を併せて発表

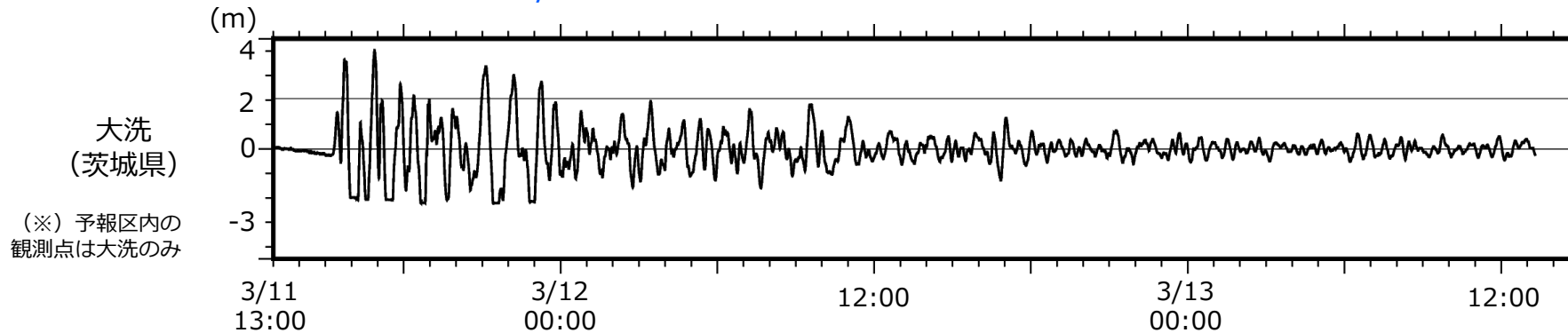


(※) 各地の満潮時刻・津波到達予想時刻、津波の高さに関する情報



17:00	茨城空港	百里空港事務所主催の関係者会議第2回（空港ビルの引き続きの使用中止決定。3/13も運航停止）
17:40	茨城県災害対策本部	第4回災害対策本部会議（被害状況とこれまでの対応、支援物資の確保と配布）
19:30	茨城港大洗港区事務所	茨城海上保安部との協議（港内の浮遊物や転落車両等により着岸に支障が出るおそれがあることへの対応）
20:30頃	茨城県災害対策本部	津波警報解除の情報を受け、県央以北の漁港の被害状況調査のための人選を行った。

最初の津波警報発表から約48時間後（～3/13 14:49）（2枚中1枚目）



警報の切替時には予測情報(※)を併せて発表

津波警報等(茨城県)



(※) 各地の満潮時刻・津波到達予想時刻、津波の高さに関する情報

報道発表(本庁)



津波観測情報(茨城県)



報道発表での呼びかけ内容や見通しの言及

(12日23時40分)

- （報道発表資料より）津波の津波警報を発表している沿岸では、引き続き警戒してください。津波は繰り返し襲ってきます。警報が解除されるまで警戒を続けてください。

(13日09時00分)

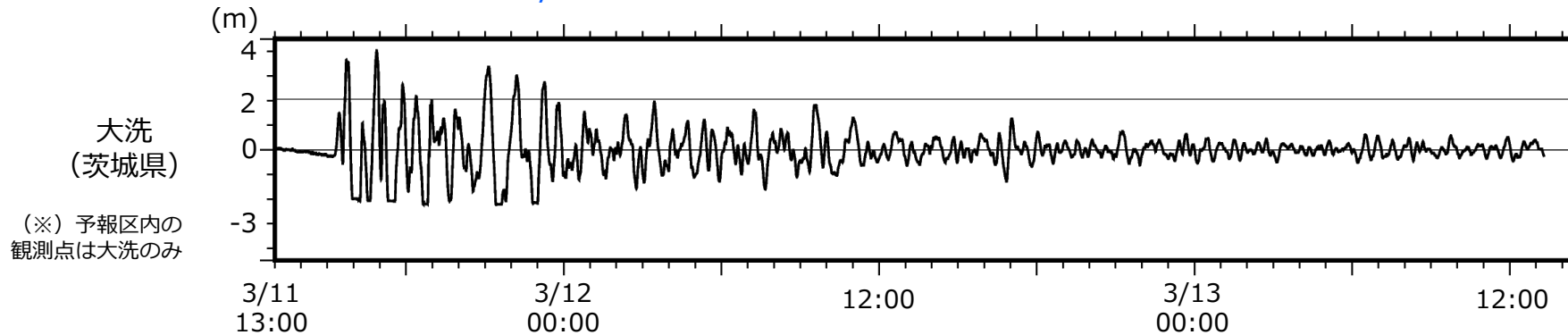
- （報道発表資料より）津波警報から津波注意報に切り替えた沿岸では引き続き海岸付近は危険ですので、近づかないでください。
- （記者会見にて）津波の波形はおおむね減衰しており、50cmを超えることはない判断し注意報に切り替えた。昨日夕方から今朝にかけて大まかには半分くらいに減衰しているので、もう半日くらいあればさらに半分に減衰する可能性もあると見ているので、推移を注意深く見ていきたい。海岸付近で複雑に反射やトラップしている波があるので、時間が経過してから高くなることもあるが、注意報レベルでは陸上への影響は少ないと考えている。

(13日12時55分) 呼びかけ等は特に無し

(解除後の13日18時30分)

- （報道発表資料より）津波注意報を解除しましたが、今後1日程度は若干の海面変動が継続する可能性が高いと考えられます。このため、海に入って作業する場合は十分に安全を確認した上で行ってください。

最初の津波警報発表から約48時間後（～3/13 14:49）（2枚中2枚目）



警報の切替時には予測情報（※）を併せて発表

津波警報等(茨城県)



(※) 各地の満潮時刻・津波到達予想時刻、津波の高さに関する情報

報道発表(本庁)



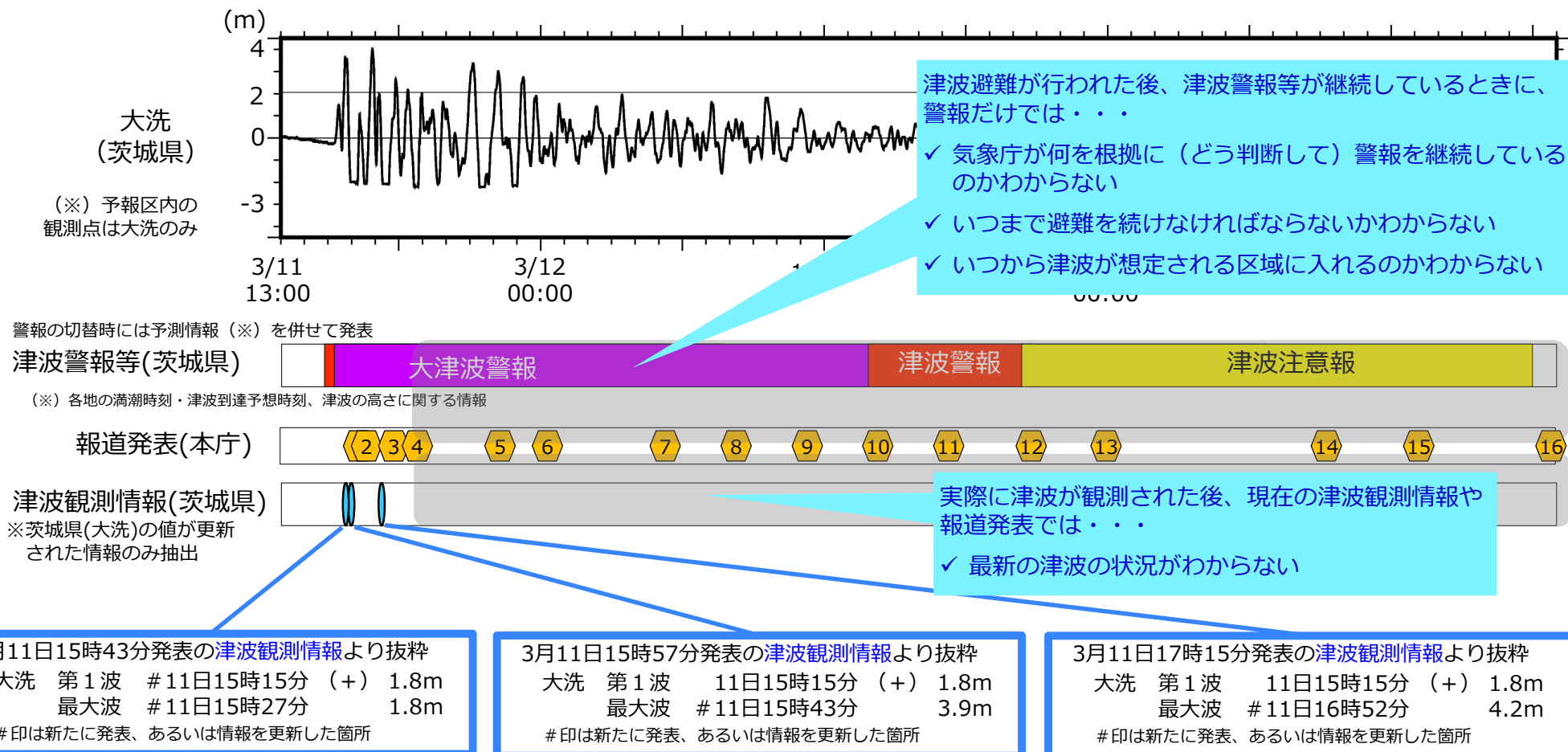
津波観測情報(茨城県)



07:00	漁業無線局	津波注意報へ切り替わったため、沖合避難の漁船が最寄りの漁港へ帰港（一部は食料等を調達して再度避難し17:58帰港）
08:00	茨城県災害対策本部	県央以北の漁港の被害状況調査のため職員派遣
11:26	茨城県災害対策本部	第5回災害対策本部会議（沿岸部の津波浸水状況や液状化等の被害状況、食料支援、燃料確保）
13日	茨城海上保安部	大洗港内で潜水調査を実施。大型の船舶が入港困難な状況であることを確認。

津波警報等が長時間継続する場合、その継続判断や切替判断、津波注意報の解除見通しに対して関心が寄せられている（資料1）。また各防災機関では、発災直後から、被害状況の調査や応援部隊の派遣、被災リスクの高い地域での活動等、様々な防災対応を行う上での判断が、収集した情報を元に行われている。

しかし、現状、津波の推移（最新の津波の状況（実況）や今後の見通し）についての情報発信の内容や方法が定まっていない。



気象庁から情報発表を行う際にとりうる発表方法について、それぞれのメリット・デメリットを整理した。

発表方法	概要	メリット	デメリット
電文	XML形式の電文として発表	- 機械可読性があることから、システムでの自動処理が可能 - コンテンツ等の目的に応じて、一部情報を抽出したり、他の情報と組み合わせて利用することが可能 - 情報の伝達経路が明確 - 随時情報を更新するため、速報性がある	必ずしも留意事項等とセットで伝達されるとは限らないため、意図しない形で捉えられる可能性がある。
記者会見	報道発表資料に掲載するとともに、記者会見で口頭で説明	- 補足や留意事項、考え方、捉え方の解説を加えながらの情報提供が可能 - YouTubeで配信するため、解説等の内容をリアルタイム視聴や録画視聴で確認できる	- PDFのため二次利用先が限られる。 - 視聴している人にしか伝わらない。 - 更新間隔が一定時間必要
気象庁ホームページ	解説資料やリアルタイムコンテンツとして掲載	- 誰でも見ることができる。 - いつでも見ることができる。	- 解釈が閲覧者に委ねられる。 - 見ようとした人にしか伝わらない。
自治体の災害対策本部等での解説	派遣された職員が口頭で解説	用途やニーズに沿った情報提供が可能	災害対策本部に参加している関係者のみにしか伝わらない

- ✓ 津波の今後の見通しについては、状況の不確実性に則した表現や解説が求められることから、電文は適さないと考えられる。
- ✓ 津波の実況については、発表する内容や受け手のニーズに応じて、高頻度の更新の必要性や解説の必要性等が異なることから、複数の方法を検討する必要がある。

- 津波来襲中の避難の継続の徹底や、津波の減衰段階における人命救助活動等の防災対応の支援を目的として、津波の実況や経過、見通し等気象庁が持つ情報について、事象の推移に応じて、「津波情報」や報道発表、災害対策本部等への解説において効果的に解説・情報提供するためには、いつ、何を伝えるべきか。

※第1回 資料5「本検討会における検討課題と論点」より

	充実内容（案）	方法とタイミング	避難継続への効果	防災対応への効果	懸念事項
① 見通し	①-1 過去の事例等を元に、津波が継続する見込みを解説する。	- 津波警報等発表後、2回目以降の記者会見 - 災害対策本部等への解説	- 見通しがわからないことへの不安の低減 - 避難を継続しつつ、より環境の良い場所へ移動することを検討	- 浸水想定区域に入ることができない期間の把握 - 被害状況調査や救助活動等、陸上での活動の可能範囲や内容の検討	- 過去に同様の事例が無い場合など提供できない事例、タイミングがある。 - 情報の伝達先が限定される。
	①-2 次の満潮時刻を考慮し、津波の減衰傾向が緩やかな場合に、現在より潮位が高くなる旨を注意喚起する。	- 津波警報等を発表してから2度目の満潮時刻の前の記者会見 - 災害対策本部等への解説	避難継続の根拠	救助活動中の場合、活動の中断時期の判断	場所によって満潮を迎える時間帯が異なるため、全国一律に呼びかけることが難しい。
② 実況	②-1 津波の実況と、今気象庁が何を考えて（何を根拠にして）津波警報等を発表しているかを解説する。	- 津波警報等発表後、2回目以降の記者会見 - 災害対策本部等への解説	避難継続の根拠	- 津波の状況のより正確な把握 - 被害状況調査や救助活動等、陸上での活動の可能範囲や内容の検討	情報の伝達先が限定される。
	②-2 各観測点における最新の津波の高さの数値を提供する。	随時「津波情報」（電文形式）で発表	- 避難継続の根拠 - 避難を継続しつつ、津波の実況次第で、より環境の良い場所へ移動することを検討	- 記者会見等より高頻度かつ定期的な津波の実況把握 - 被害状況調査や救助活動等、陸上での活動の可能範囲や内容の検討	予想される高さより低い場合や前回情報より低くなった場合、安心情報となる恐れがある。

- 津波警報等で引き続き避難を呼びかけている最中に、津波の実況や経過、見通し等を情報提供するにあたって考慮すべき事項はなにか。
 - ・ 避難の継続を阻害することがないようにどのような伝え方をすべきか
 - ・ 災害時には情報の取得方法が制限されている状況も考慮し、事象の推移に応じて、伝えるべき事項の優先順位を整理する必要があるのではないか

※第1回 資料5「本検討会における検討課題と論点」より

人命救助活動等の防災対応を行う防災機関では、人員配置や活動内容の判断や、被災リスクの高い地域での活動判断を行う必要があることから、気象庁の発表する情報を**逐次伝達**するとともに、防災機関の**ニーズに応じた解説**を行うことが重要。

住民避難の観点では、**避難の継続を阻害しないよう**留意することが重要であり、また停電や通信の輻輳等により伝達可能な情報量の制約がある中では、伝える情報内容を絞り込む必要が生じる場面も考えられる。このため、気象庁から発表する津波に関する情報について、津波が長く継続すると見込まれる場合に**避難を継続している方々へ伝えるべき事項の優先順位**を考える必要がある。

長時間継続する津波の際に、避難を継続している方々へ伝えるべき事項の優先順位（案）～

高
↑
優先度
↓
低

- 津波警報等と避難の呼びかけ
- 次の満潮時刻（天文潮位による潮位の上昇を考慮するため）
- 観測された津波の最大の高さ（実際に津波が襲来していることを示す）
- 津波警報等を継続している根拠の解説、津波が継続する見込みの解説（避難の必要理由を示す）
- 最新の津波の実況値（警報発表時から時間が経過した後も、まだ津波が継続していることの根拠を示す）

防災機関における対応を支援するとともに避難の継続を妨げないようにするために、記者会見や自治体の災害対策本部等で行う津波の実況や見通し等の解説として、以下の文案が考えられる。

2回目以降の記者会見等での解説例（案）

【①-1】

過去の事例等を元に、津波が継続する見込みを解説する。

※過去に同様の事例が無い場合等、解説ができない可能性があることに留意

- 今回の地震の周辺で（日本海で）、ほぼ同規模の地震が発生した過去の津波の観測記録から、少なくとも1日程度以上(*)は津波の高い状態が継続すると考えられる。
(*) 過去の事例から推測される継続時間の見込みに具体的に言及可能な場合に「少なくとも●●程度以上」または「少なくとも●●～●●程度」といった表現を用いる。
- 震源より遠い地域では、まだ高い津波は到達していないが、●●の地震の事例では、第1波の到達から●時間以上遅れて高い津波（最大波）が観測されている。

2度目の満潮時刻を迎える前の記者会見等での解説例（案）

【①-2】

次の満潮時刻を考慮し、津波の減衰傾向が緩やかな場合に、現在より潮位が高くなる旨を注意喚起する。

- ●●地域では●時頃に（早い地域では●時頃から）次の満潮を迎える。津波は徐々に減衰しつつあるが、津波が満潮と重なると潮位が現在より上昇する可能性がある。

津波警報等を長時間継続している際の記者会見等での解説例（案）

【②-1】

津波の実況と、今気象庁が何を考えて（何を根拠にして）津波警報等を発表しているかを解説する。

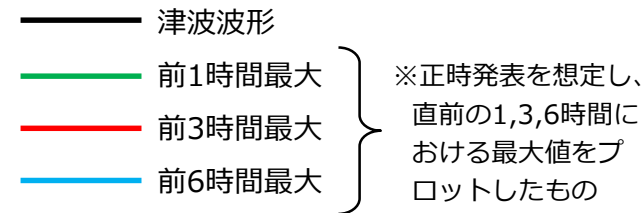
- 現在も引き続き高い津波が観測されている。
- これまでの津波（潮位）の推移は概ねシミュレーション結果とも一致しており、今後も高い津波が来ることが予想されるので、引き続き津波警報を継続している。
- 過去に発生した●●の地震では（シミュレーション結果では）、（●●で反射してから到達する津波もあるため、）今後も津波の高い状態が継続する可能性があることから、津波警報を継続している。

津波の推移状況を示す適切な時間幅の検討

【②-2 各観測点における最新の津波の高さの数値(*)を提供する】

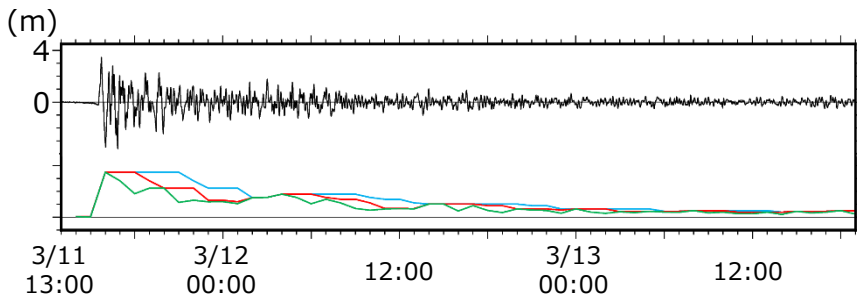
津波は常に上下動を繰り返すことから、津波の推移の状況を示す数値は、一定の時間幅から求められる値とする必要があり、また避難継続や防災対応への活用を目的とすることから、その値は当該時間幅の最大値とする必要がある。今回、適切な時間幅を検討するため、3つの時間幅（1時間、3時間、6時間）を設定した。

(*)津波警報以上を発表中の津波予報区では、観測された津波の高さが低い間は、数値ではなく「観測中」と発表。

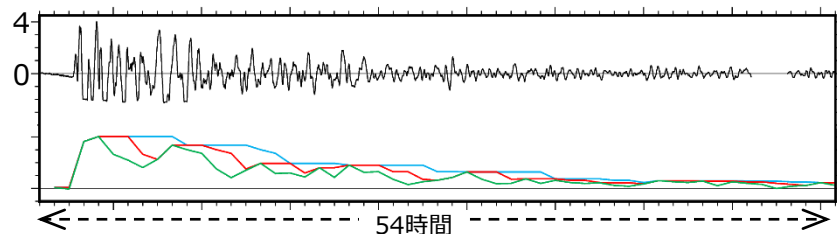


2011年東北地方太平洋沖地震

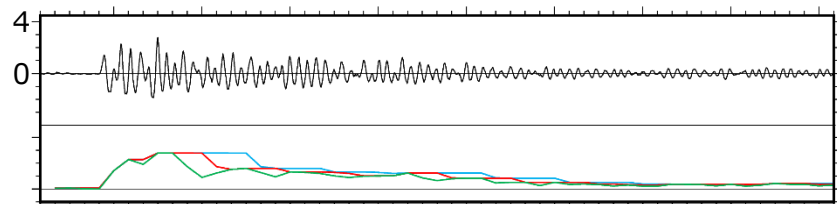
えりも町庶野（北海道）



大洗（茨城県）



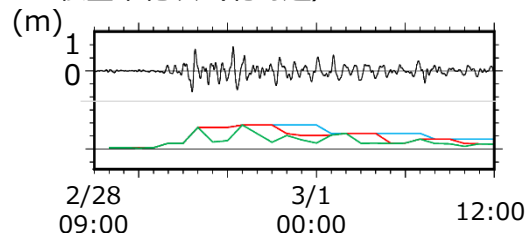
須崎港（高知県）



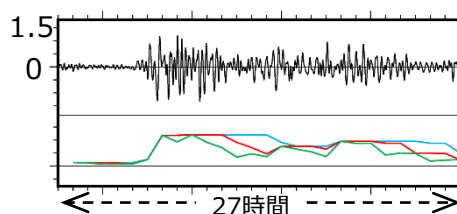
2010年チリ中部沿岸の地震

※チリ中部沿岸の地震や能登半島地震の縦軸の縮尺は東北地方太平洋沖地震の2倍としている。

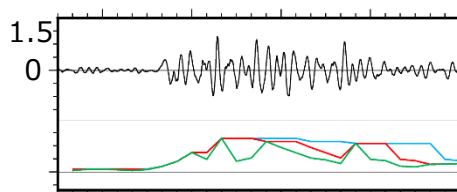
根室市花咲（北海道）



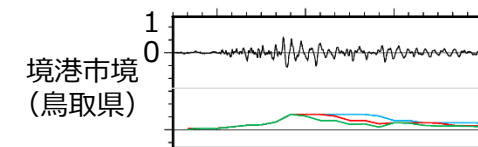
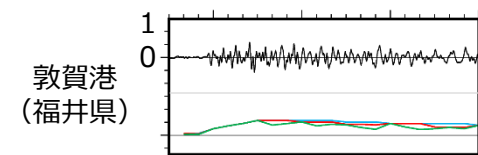
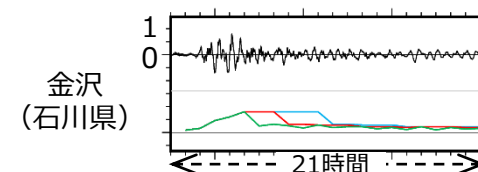
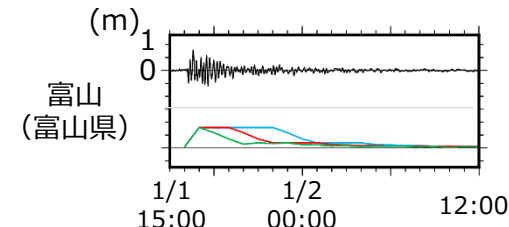
久慈港（岩手県）



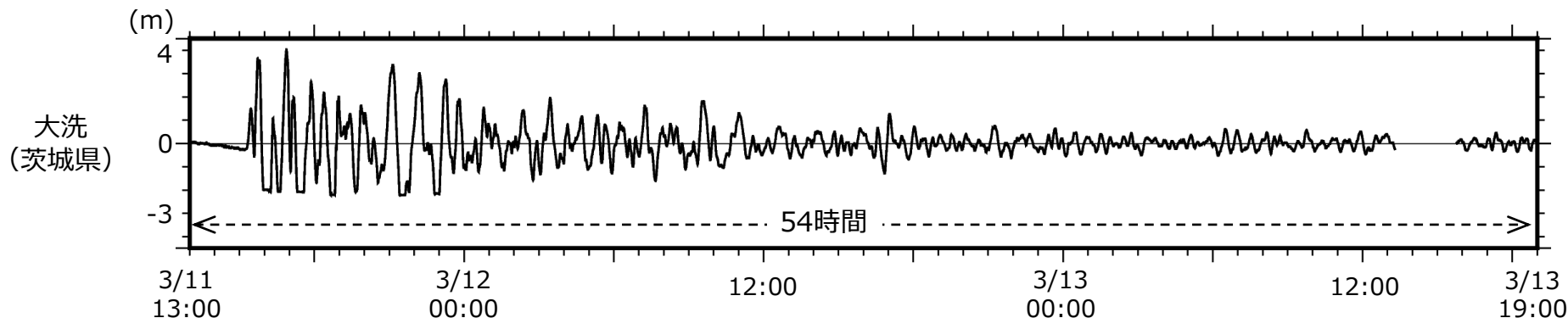
須崎港（高知県）



2024年能登半島地震



2011年東北地方太平洋沖地震における津波予報区「茨城県」を例に、実況や見通し等の情報・解説を充実させた場合の想定時系列を示す。



警報の切替時には予測情報（※）を併せて発表



（※）各地の満潮時刻・津波到達予想時刻、津波の高さに関する情報



（2回目以降の記者会見）
過去の事例から今後1日以上は
高い状態が継続する見込み。

①-1

（2回目以降の記者会見）
まだ減衰せず高い津波が観測されている。
シミュレーション結果とも概ね一致して
いることから津波警報を継続している。

②-1

（2度目の満潮を迎える前の記者会見）
●●地域では●時頃に次の満潮を迎えること
から、津波の高さと天文潮位を合わせた潮位
の高さは現在より高くなる可能性がある。

①-2

↓※当時の情報発表に加えて、12日05時以降、少なくとも1時間に1回は発表すると仮定し、
↓ 茨城県(大洗)における最大波の高さや直前3時間の最大値が更新される情報を抽出した。



②-2

3月11日17時15分発表想定

大洗	第1波	11日15時15分	(+)	1.8m
	最大波	11日16時52分		4.2m
	ここ3時間最大			4.2m

3月12日01時37分発表想定

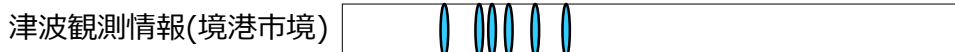
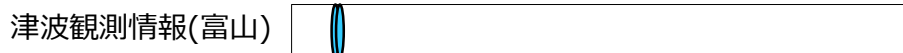
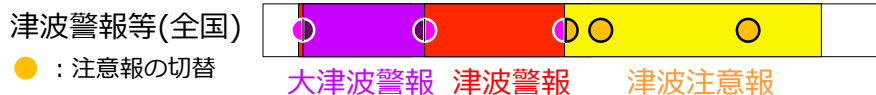
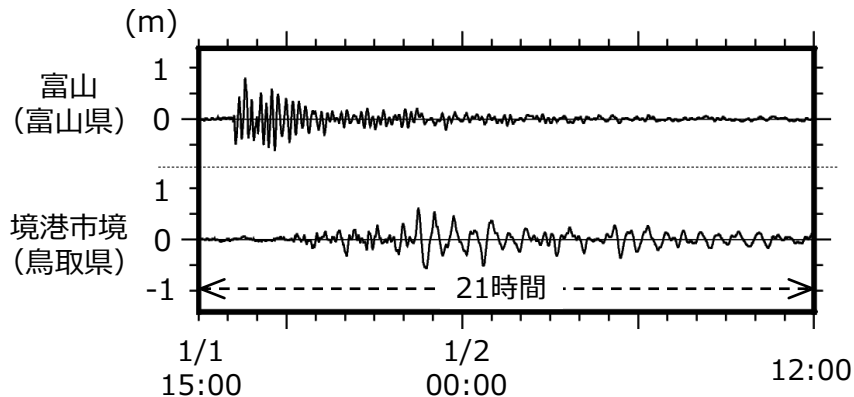
大洗	第1波	11日15時15分	(+)	1.8m
	最大波	11日16時52分		4.2m
	ここ3時間最大			2.7m

3月12日18時00分発表想定

大洗	第1波	11日15時15分	(+)	1.8m
	最大波	11日16時52分		4.2m
	ここ3時間最大			0.8m

令和6年能登半島地震を例に、実況や見通し等の情報・解説を充実させた場合の想定時系列を示す。

観測された津波波形と発表した情報等



※富山や境港市境の値が更新された情報のみ抽出

記者会見における解説の想定

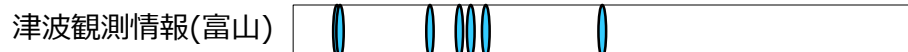
➤ 2回目の記者会見 ①-1

1983年日本海中部地震や1993年北海道南西沖地震という日本海で発生した過去の同規模の地震による津波の観測記録から、地震発生後少なくとも半日から1日程度は津波の高い状態が継続する見込み。

➤ 3回目(2度目の満潮を迎える前)の記者会見 ①-2

北海道から中国地方の日本海沿岸地域では05時頃から次の満潮を迎えるため、津波が満潮と重なると潮位が現在より上昇する可能性がある。

津波観測情報の想定 ②-2

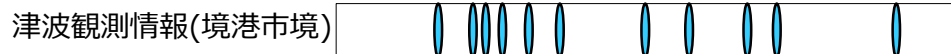


1月1日20時40分発表想定

第1波 1日16時13分 引き
最大波 1日16時35分 0.8m
ここ3時間最大 0.5m

1月2日01時31分発表想定

第1波 1日16時13分 引き
最大波 1日16時35分 0.8m
ここ3時間最大 0.1m



1月1日20時40分発表想定

第1波 1日18時14分 押し
最大波 1日22時30分 0.6m
ここ3時間最大 0.6m

1月2日03時00分発表想定

第1波 1日18時14分 押し
最大波 1日22時30分 0.6m
ここ3時間最大 0.4m

※当時の情報発表に加えて、2日03時以降、少なくとも1時間に1回は発表すると仮定し、富山や境港市境における最大波の高さや直前3時間の最大値が更新される情報を抽出